

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	基本理念の構築は、是非とも毎年継続して行っていきたいと考えております。年度の始めには人事異動もあり、新しいスタッフ体制となるため、そのスタッフ全員が関わって掲げた理念のもとに、日々のお年寄りのケアに携わりたいと考えております。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	理念をご家族や地域の方々に理解していただくためには、理念の構築の際にご家族や地域の方にも同席していただき、共に考えていくのも良いのではないかと考えております。是非実践してみたいと考えます。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域と交流できる行事を更に増やしていきたいと考えております。また、定期的に保育園を訪問させていただいたり、訪問していただいたりといった取り組みも行いたいと考えております。現在、中学校の授業の一環として、生徒さんと交流する機会があります。今後とも継続した関わりをもちたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「利用者の支援を基盤」ということで、運営推進会議を活用させていただいております。会議では、利用者の生活の支援という視点の他、地域の高齢者の方々にも目を向け、近隣の居宅介護支援事業所のケアマネや、警察の方もお招きして「地域における高齢者の様子」ということで情報交換をさせていただく機会を設けております。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の実施に向け、実施する意義等について事業所ミーティングを通して全スタッフで話し合いを行っております。自己評価については、全スタッフで行い、その意見を集約して、自己評価をさせていただきました。	○	自己評価を行った後、それを全スタッフで振り返り、今後のお年寄りとの関わり（ケア）に活かしていきたいと思っております。併せて、外部評価の結果も踏まえて見つめなおしていければよいと考えます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス利用状況の他、行事实施報告、認知症ケア向上等のため参加させていただいている研修会への参加報告、研修受け入れ状況などについても報告を行い、委員の皆様からアドバイス等をいただいております。そこでいただいた意見を、ホームに戻りサービスに活かせるよう心がけております。	○	この運営推進会議には、グループホームの管理者の他、毎回2名程度のグループホームスタッフが交代で参加させていただいております。今後の課題としては、何らかの形で全スタッフが継続して会議に関わっていける工夫をすることであると思っております。併せて、毎回の会議の様子を全ては伝えきれていないのが現状としてありますので、その部分も改善していこうと考えております。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で企画した季節毎の行事や家族会など、可能であればご参加いただくようにお誘いをしております。その際は、運営推進会議の場を通して案内を差し上げております。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については、主に外部研修を通して学ぶ機会をいただいております。しかし、専門的な学習としては、まだ足りていないと考えます。全スタッフがこのような外部研修を受けていないのが現状です。	○	権利擁護に対する知識や認識、そして、実際に関することは、認知症高齢者と多くの関わりをもつ立場にある、グループホーム職員にとっては重要であると思っております。研修を受けたスタッフを中心となり事業所で勉強会を開くなど、今後取り組みたいと考えます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが法律そのものを詳しく学ぶ機会を、現状としてもっていないというのが現状です。入所の他、ショート・通所介護も事業として展開しておりますので、高齢者虐待が行われていないかについては、常に利用者の心身の状態を観察し、ちょっとした変化も見逃さないようにしております。	○	普段から言葉使いなどを気をつけるなど配慮しております。言葉使い一つでも、一歩間違えれば、虐待に繋がる要素を持ち得ているため、関わりの基本となる言葉使いについては、今後共、徹底して気をつけていきたいと考えます。又、全てのスタッフが参加した、高齢者虐待についての勉強会を実施したいと考えております。一度に全員が集まることは難しいため、勉強会のもちかたや進め方についても検討が必要と考えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除については、サービスを利用する前に、利用者及び利用者家族に対して、契約書及び重要事項説明書を用いて説明をしております。その上で署名・捺印をいただいております。また、不安を残さないよう、その後も何か不明な点があれば、お話しいただけるよう伝えております。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談及び苦情受付を設けている旨、契約書及び重要事項説明書に記載しております。また、見やすい場所ということで、グループホームの玄関にも掲げております。現在のところ、苦情等の受付はありませんが、事案が発生した際は、担当スタッフが迅速に対応する仕組みとなっております。	○ グループホーム内における取り組みは継続して行っていくことはもちろんですが、法人内の他事業所で発生した苦情等の事例についても、引き続き法人内で定期的実施している主務者会議などを通して、解決のための方法や今後の取り組み方について継続して協議していきたくと考えております。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お年寄りの普段の生活の様子の説明は、ご家族が来所された時は勿論ですが、なかなか来所できないご家族のために、毎月の利用料の請求時、一月の様子を日別に記した日誌と一緒に届けております。併せて、お小遣いの状況についても領収証とともに報告しております。尚、お年寄りの様子等、変化がある時はその都度報告や相談を行っております。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満などは、ケアプランの見直しの際や、家族会、用事があり電話でお話をさせていただく時など、機会がある毎に伺っております。	○ 年に一度、家族アンケートを事業所独自で行っております。その結果を日々のケアに活かしていきたいと思っております。また、外部者へ表す機会として、外部評価の際に実施される家族アンケートを活用させていただいております。家族アンケートは今後も続けていきたくと考えております。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者ということで、法人の総所長が中心となり、法人内全スタッフの面接を年1回開催しております。その中で、それぞれのスタッフが思っていることを話してもらうことで、法人内の事業所の運営に活かす取り組みを行っております。事業所の管理者が独自に、運営に関する意見を聞く機会としては、毎月2回の事業所ミーティングなどがありますが、その中では、事業の運営について話す機会をもつこともあります。	○ 運営という視点から、現在、グループホーム内で行っている共用型デイサービスについての検証を行っております。今までにはなかったサービス形態の事業を運営してきたということで、法人本部と一緒に、振り返っておりますが、この検証は今後も継続して行っていく予定です。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	認知症ケアをより手厚くするために、人員基準よりも多くの人員配置で対応しております。突発的に発生する利用者の病院受診を始め、その都度勤務を変更・調整しております。急な勤務変更もあるため、普段からスタッフ間の協力体制への理解を多く必要としており、現状としてスタッフからは多くの理解と協力をいただいております。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎年、定期的に法人内で人事異動が実施されております。その際は、出来るだけ大幅な異動は避けるよう配慮しております。人事異動後も、事業所内に混乱が起きないように、段階的に異動するなどの対応を行っております。人事異動については、ご家族からも、最小限にさせていただく様、要望が出されておられ、その意向にも配慮しております。	○ 人事異動の度に、スタッフも少なからず動揺があると考えます。それが適度な刺激になれば良いのですが、ストレスとして感じてしまうと、それがお年寄りへのケアにも直接影響してしまうと考えます。どこの事業所へ配属となっても早く対応していけるよう、普段からスタッフの資質向上のために、事業所毎に、また、法人全体でも取り組んでいきたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として取り組む事項であると考えます。スタッフの経験や役職に応じて、外部研修を積極的に受講していただいております。その中では、スーパービジョンやコーチングについて学んでもらうことを目的としております。そして、それらを実践するスタッフもまた、謙虚さを忘れることなく、人材の育成という視点にたつて日々の業務に取り組んでおります。	○ この分野は、今後、更なる取り組みが必要であると考えます。スタッフの育成は、やがては、直接的なお年寄りのケアの向上に留まらず、家族との関係であったり、地域との関係であったり、様々な社会資源と有効に関わりをもつためには必要不可欠であると考えます。働くスタッフ自身のためにもなります。それぞれのスタッフが、自発的に自己実現に向けて取り組めるように、法人や事業所としても全面的にバックアップが必要と考えます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	身近な所では、事業者連絡会に参加させていただいたり、年に数回実施される同業者が集まる交流会に参加させていただく機会をいただいております。又、グループホームに限っては、県グループホーム協会で毎月実施される定例会に参加させていただいております。協会の事業の一環として、毎年、グループホームのスタッフが相互に出向いての交換研修を実施しており、毎回、多くの気付きを得ております。その後のお年寄りへのケアにも活かされております。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働くスタッフの心身が健康でなければ、お年寄りに対して良いケアを提供することは出来ないと考えます。全スタッフの面接を実施しており、悩みを聞く機会は設けておりますが、奥底に秘めている悩みや心配事などストレスと感じていることを、一緒に考えていけているかについてはまだまだ課題が多いと考えます。	○ スタッフが仕事に対して、ストレスを感じなくなるには、様々な取り組みが必要と考えます。可能であれば、何をストレスと感じているかを匿名でも良いので挙げてもらい、それを一つ一つ検証していくことも試みてみたいと考えます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課について取り組みを始めております。しかし、ケアの場面では、それが成果として客観的に実証することが、難しいことも多いのが事実です。また、人が人を評価するには評価する側の主観が入り過ぎる危険性もあるため、慎重に取り組んでいきたいと考えます。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際には、家族と共に、利用を希望される本人からも意向を伺うようにしております。認知症の方であるため、その関わりの際は慎重に行っております。基本的な姿勢として、話を聞くことに重点をおき、何が困っているのか、何を必要としているのかを理解するように心がけております。このような関わりを利用までに複数回実施しております。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を希望される場合のほとんどは、ご家族による都合が多いのが現状です。まずは、ご家族の話を徹底的に聞くという姿勢をとっております。そして、その現状は現状として受け止めております。その後、本人同様、何が困っているのか、何を必要としているのかを把握するよう心がけております。このようなコミュニケーションは利用に至るまで数回実施しております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、客観的に話を伺うように心がけております。家族とご本人同伴の場合、家族の訴えの方が強く相談を受ける側に伝わる傾向があります。ケアマネ同伴の場合は、ケアマネと共にその家族と本人がおかれている現状について把握し、適切な関わりの方角性を模索していただけるように心がけております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにいきなりサービス利用となるのではなく、一度、事業所に遊びに来ていただき、他のお年寄りやスタッフとお茶を飲んでいただきながら、まずは雰囲気を感じていただくような関わりを実践しております。希望であれば、ご家族も同伴していただいております。ご家族にもいつでも気軽に来所していただきたい旨伝えております。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアをする側、受ける側という意識を無くしながら日々お年寄りに関るように心がけております。普段の関わりの中では「お互い様ですから・・・」といった会話もみられることもあります。普段から楽しみ事も一緒に楽しむよう心がけております。スタッフが本当に楽しくなければお年寄りも本当に楽しめないと考えます。お年寄りだけでなく、スタッフも大いに楽しめるような関わりができるよう心がけております。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりは、お年寄りの生活を支援させていただく上で、非常に重要な関わりの一つと考えます。家族会などでは、家族も一緒にやりながら楽しめるよう考えております。お年寄りご家族とスタッフが同じ方向を向きながら関わっていただけるよう心がけており、実践しております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係を絶やさないう、工夫しております。いつでも気軽に来所できる旨伝えており、また、いつでも突然でも一時帰宅できる旨つたえております。なかなか会えないご家族にも、お年寄りの状況は一月の様子を日別に記した一行日誌を毎月定期的に届けております。	○	ご家族が気軽に、気持ちよく来所できるような雰囲気をだせるように、普段からスタッフも明るい挨拶が出来るようにしております。今後とも、常に気持ちの良い対応が出来るように心がけていきたいと考えております。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お年寄りのバックグラウンドを知ることが、その人を知ることの始まりと考えております。その中でも、それぞれのお年寄りの馴染みの場所ということで生家や嫁ぎ先を訪問する「ふるさと訪問」を、定期的にではありますが実施しております。ご家族や他のお年寄りも一緒に訪問することから、本人、家族、他のお年寄り、スタッフの皆で同じ時間や空間を共有することができ、その後のお年寄りとの関わりにも大きく影響しています。	○	嫁ぎ先や生家を訪れる「ふるさと訪問」だけにとどまらず、日々の会話の中から、馴染みの場所を伺い、その場所にも訪れてみる取り組みを実践したいと考えております。様々なお年寄りの馴染みの場所訪問を行いたいと思います。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お年寄りの生活を支援させていただく際、お年寄り同士のなじみの関係を大切に考えております。お年寄り同士の関係が、できるだけ自然に良い状態がもてるように、スタッフも状況に応じてメリハリをつけた関わりを行っております。食事の際も同じテーブルを囲み、お互いが気持ち良くいられる雰囲気作りを心がけております。	○	お年寄りが一同に集まり、賑やかに会話を楽しむ時間として、朝礼の時間を設けております。そこでは日付確認を行いながら、リアリティオリエンテーションや回想法を交えた会話が飛び交っておりますが、このようにお年寄り全員が集まる時間をもう少し増やしてみるのも良いのではないかと考えております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お年寄りがお亡くなりになり、サービス利用が終了した場合においても、いつでも気軽にグループホームに遊びにいらしていただくように伝えております。運営推進会議においても、元利用者家族としてご参加いただいたこともありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行う際に、そのお年寄りの願いや希望、想い、嗜好などを把握するように努めております。実際にご本人から伺ったり、ご家族から伺ったりしています。それでも不十分な所もありますが、その際は関るスタッフの想いも取り入れながら、思いや意向の把握に努めております。	○	関わるスタッフの想いも聞き入れながら、本人の思いや意向の把握に努めておりますが、必要以上に想い入れが強くなりすぎないように注意する必要があると考えます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのお年寄りのアセスメントを行う際に、お年寄りが長く馴染まれてきた場所であったり、人の付き合いであったり、出来るだけ多くのことを知る取り組みを実施しております。また、在宅サービス等を利用していた方が入所となる際は、ご家族を始め、担当ケアマネとも十分な情報交換や意見交換を行っており、必要としているサービスを提供できるよう努めております。	○	そのお年寄りのバックグラウンドを知れば知る程お年寄りを知り、また理解することに繋がると考えます。この取り組みは、ご本人を始めご家族や地域の力も借りながら継続していきたいと考えます。尚、個人情報にも関るところですので、慎重に行っていきたいと考えます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中の過ごし方について、出来るだけご本人の意向も取り入れながら楽しく生活していただくように考えております。暮らしの現状を振り返れば振り返るほど、お年寄り主体の生活に近づける努力や工夫の必要性が見えてきており、改善に向けて日々模索しております。日々の健康状態については、看護職員と連携をとりながらその把握に努めております。	○	お年寄りの生活の現状を把握する取り組みは、大切なことであり今後とも継続して行いたいと考えます。把握するに留まらず、少しでもお年寄りの希望が多く叶えられるような日々の暮らしに近づけるように、取り組んでいきたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画(ケアプラン)は、一人のお年寄りに全員で関わりながらアセスメントを実施して、それをもとにして作成されております。一度、スタッフ間で協議した後、それを原案という形で、ご本人やご家族に見ていただいております。そこでの意見や意向を盛り込み最終的な完成としております。	○	今後は更に、より多くの視点を大切にしながら介護計画を作成していきたいと考えます。地域にある様々な社会資源をもっと活用していければ良いと考えています。お年寄りご本人のための介護計画であることから、スタッフの想いが先行してしまわないよう、留意して行きたいと考えます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、ご本人やご家族、スタッフと行っております。しかし、この見直しについて、期間に応じた見直しが出来ていないという反省があります。見直しは実施しているものの、もう少し、細やかな介護計画の見直しを行って行く必要があると考えます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のケース記録に記しております。その他、申し送りノートを活用して、気になる事などを書き込み情報の共有を図りながら、継続して記録を行っていただけるようにしております。それにより、日々の関わりの方角性が確認でき、その蓄積が介護計画として活かされている事例もあります。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、ショートステイと共用型デイサービスの事業も併せて実施しております。ショートステイでは、共用型デイサービスの利用者が交代で利用されることが多く、馴染みのスタッフのもと馴染みの顔に囲まれながら、安心して利用していただいております。本人や家族の希望にも可能な限り対応しております。ショートステイ初利用の方で、気に入ったとのことで、一泊予定が急きょもう一泊されてから帰宅されたという事例もありました。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お年寄りの生活の支援の充実もその大きな目的として、運営推進会議を開催しておりますが、その会議には民生委員を始め、議題によっては消防や警察の方々にも参加していただいております。また、市が運営する公的施設（世界の椿館等）を地域との交流ということもあり、無料開放していただくなど、ありがたいご配慮をいただいております。直接的にお年寄りが満足するという形でサービスが提供できております。	○	市に登録しているボランティア団体がありますが、各団体を招いての催し物を開催していきたいと考えております。その際は、どんな方々をお呼びするか、お年寄りの希望を優先しながら企画させていただきたいと考えます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状として、他のサービス利用についての具体的な協議はしておりませんが、運営推進会議を通して地域の他のケアマネジャーと意見交換をする機会は設けております。特に社会資源をどのように有効活用しながら、サービスを提供していくかについて模索しております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、運営推進会議を通して関わりをもたせていただいております。現状で提供しているサービスを報告し、それに対して意見をいただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何らかの疾病により、入院する時も、退院する際も常に本人やご家族やの希望を優先し、かかりつけ医の医学的な見解を踏まえた上で、事業者側と一緒に考えて関わりの方角性を見出しております。また、病院受診も家族の力は借りますが、任せきりにせず事業者側も積極的に関わらせていただいております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や看取りについては、かかりつけ医とも十分なコミュニケーションをとらせていただくのが今後の課題として考えております。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後の取り組み課題ではありますが、事業所として「できること」と「できないこと」を、全スタッフが関わりながら明確に見極めていくことを実践していきたいと考えます。見極めの際も、答えを急がず様々な角度から検証していきたいと考えております。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	お年寄りの生活構造は、お年寄り自身に決めていただき、創っていただくのが望ましいと考えますが、満足に出来ないところがあります。外出支援でも、入浴支援にしても、九人のお年寄り、それぞれにメリハリのある生活の支援ができるようにしていきたいと考えます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	日常的に行われる身だしなみを整える支援や毎日着る洋服を選ぶ支援などは、お年寄りの意向を十分に汲み取った支援が思うようになされておられません。例えば、髪を整える際もお年寄り自身に鏡を見ていただきながら、納得した形で支援できるように取り組んでいきたいと考えております。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	買い物の支援では、出掛けるお年寄りが同じお年寄りに偏ってしまう傾向があります。出来るだけ、多くのお年寄りをお誘いしながら買い物の支援を行いたいと考えております。食事作りの支援でも、もっとお年寄りの料理についての知識や知恵を発揮していただく場面を多くもてるように取り組んでいきたいと考えます。また、食事の楽しさを更に深めるために、「いただきます・ごちそうさま」の声かけをお年寄りスタッフ皆で行う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	今後とも、お年寄り一人一人の嗜好の把握に努め、お年寄りが幸せを感じていただける時間を少しでも多く提供できるように取り組んでいきたいと考えます。

(事業者名 グループホーム [ひまわり])

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄支援に要する具体的な関わり方をアセスメントした後、個別に支援しています。声かけだけで良い方、見守りも必要な方、積極的な関わりが必要な方とそれぞれに合わせた排泄支援を実施しております。又、場所を配慮して排泄記録をつけ、個別に排泄リズムの把握にも努めております。	○ 夜間はリハビリパンツを使用しても、日中は綿下着を使用されているお年寄りがおられます。出来るだけ普通に近い形で過ごしていただけるための関わりは今後とも実践していきたいと考えております。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する際は、意向を確認できる方からは必ず伺ってから入浴へお誘いしております。意思の疎通が困難な方へも、「入浴いかがですか・・」と必ず伺ってからお誘いしております。入浴中は、楽しく気持ちよく過ごしていただくために会話を多くし、沢山の活き活き発言を引き出せるように心がけております。	○ 入浴にお誘いする時間帯について、見直していきたいと考えます。現在はほとんど日中のうちに入浴していただいております。どの時間帯であればより、気持ちよく入浴していただけるか、今一度お年寄りの目線で振り返り、関わり方を見直していきたいと考えております。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠される場合は、普段から使い慣れている布団を自宅から持ち込んでいただき使用しております。布団も、季節や気温に応じて本人にも伺いながら調整させていただいております。他にも、日中に休息する場合、ソファや安全に配慮した椅子を用意しており、環境面でも配慮しております。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	そのお年寄りのバックグラウンドを知ることにより、長く馴染まれてきたことと興味、関心があることをスタッフは共通して認識するようにしております。それをもとに関わりのヒントを見つけ、お年寄りの力を発揮できる環境を整えたり、場合によっては、スタッフからの積極的な関わりを行うことでお年寄りが楽しんだり、役割をもっていただくという「場」をつくり出せるように支援しております。	○ まだまだ知らないその人らしさを発見できるように、一人一人のお年寄りごと、今後とも出来るだけ多くの関わりをもちたいと考えます。ご家族や知り合いからの情報も活用させていただきながら、継続して実践していきたいと考えております。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かのお年寄りは、ご家族の了承のもと小額の現金を管理されております。現金を持っていることで、安心感を感じており、スタッフはその様子を見守りさせていただいております。また、日常の買い物の中で、会計の際に財布を渡し、現金を出して支払っていただくなど、場面場面で関わらせていただいております。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように買い物、ドライブ、地域行事への参加等外に出掛ける活動は行ってます。お誘いする場合も、本人の意向を伺いながら行ってはおりますが、必ずしも全員ご希望通りの支援ができていないのが現状であり、今後の課題と考えております。	○ お年寄り一人一人の外出について、希望通りの支援をするためには、もう少し工夫が必要になると考えております。毎日、必ず全員の希望を叶えることは難しいので、例えば、その日の出掛け先で、花を見に出掛けるなら、花好きのお年寄りを優先してお誘いするといったように、このようなちょっとした工夫を積み重ねていければと考えております。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お年寄りの皆さんには、普段から行ってみたい場所を伺うようにしております。また、ドライブに行く際も、どんな所に行きたいか伺うようにしております。家族会は、毎年2回程度開催しておりますが、普段行く機会が少ないところに行ける様に計画を立てております。その他、「食事ツアー」や普段、外出の難しいお年寄りもおられますので「出前の日」などを設けております。	○ 外出することは皆さん大変喜ばれます。沢山の珍しいもの、きれいなもの、また、懐かしいものを見に行くなど、外出支援の充実を図るようにしていきたいと考えております。家族会も定期的に開催させていただきたいと考えております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、頻繁ではありませんが実施しております。ご家族との年賀状のやり取りは毎年欠かさず行っております。	○	電話使用の支援についても、今後、ご家族と相談させていただきながら行っていきたいと考えております。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族には、気軽にいつでも突然でも訪問していただきたいと伝えてあります。訪問していただいた際も、気持ちよく過ごして頂くために、明るい挨拶を心がけるなど雰囲気作りにも気を配っております。また、本人とゆっくり話ができるように居室へ案内したり、少し離れた場所に案内することもあります。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を様々な視点からとらえ、物理的な身体拘束や心理的な身体拘束ど、常に気をつけながら取り組んでおります。最低限の安全を確保しながら、日々の関わりを行っております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、日中は掛けておりません。夜間については、安全の確保のため、施錠させていただいておりますが、お年寄りの希望があれば、外にできることも可能です。居室の中の窓については、安全の確保のため、自由に窓の開く範囲を普段は少なくさせていただいております。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	付き添いが常に必要なお年寄りには、常に付き添い安全に配慮しております。お年寄りのホーム内での所在の確認も、表現に注意しながら、常にスタッフ間で確認させていただいております。また、申し送り等でお年寄りの話をする時は、誰のことか分からないよう、名前を出さないなどの工夫しております。	○	グループホーム内であっても、常にお年寄りの所在は安全の為に確認するようにしておりますが、併せて、スタッフ同士の所在の確認も行っております。スタッフがその場から離れるときも、お互いに声かけを行います。これは、お年寄りの安全を確保する上で、非常に大切な事と考えています。今後とも徹底して行っていきたいと考えます。尚、排泄支援の際、見守りのためドアが開き過ぎていることが多いので、改善していきたいと考えます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	そのお年寄りの状況に応じて、危険を予測し、注意の必要となる物品の置き場所を工夫させていただいております。また、その時点で危険はなくても、「いつかは危険な状態になるかもしれない・・・」という意識を常にもちながら日々のケアに関らせていただいております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	場面場面で危険を予測し、事故が起きないように心がけております。事故に繋がらない場合でも、ヒヤリハット報告を活用しており、その事例を共通認識するようしております。万が一事故が起こった場合に対処するために、栄養士や薬剤師を招いての勉強会、避難訓練などを開催しております。	○	取り組みは行っているものの、具体的な事例を出しながらの勉強会を開催したり、マニュアルの再点検を実施したいと考えます。マニュアルに頼りすぎずに、常に、起こりうる事故を想定しながら日々の業務に携われるように取り組んでいきたいと考えます。ロールプレイでの危険箇所の共通認識も今後も継続したいと考えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急訓練は行っておりますが、定期的に行うまでには至っておりません。利用者の急変に対する対応の仕方は定められております。その際は、隣接する診療所の協力をいただきながら対応しております。	○	今後は、救命救急訓練を定期的に、継続して行っていきたいと考えます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎年、実施しております。避難訓練についても、昼のみならず、夜間避難訓練も実施しております。地域の方々の協力をいただきたいとのことで、現在、運営推進会議を通して、相談させていただいております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用開始時は勿論ですが、長く入居されているお年寄りのご家族に対しても、お年寄りの心身の状態に応じて起こり得るリスクについて説明させていただいております。普通の生活を保ちながら、最低限の安全を確保するための方法を一緒に考えて実施しております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の健康管理は看護スタッフを中心に行っております。いつもと違う様子や、ちょっとした変化も見逃さないように、全スタッフが連携してお年寄りの様子観察を行っております。また、急な受診は必要がないと思われるときでも、主治医に連絡し、報告及び指示をいただいております。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのお年寄りの服薬管理をさせて頂いております。服薬の際は、ご本人に確認いただいた後にお勧めしています。尚、お年寄りが服薬されている薬については、スタッフ全員で把握しておりますが、副作用や用量について完全に理解・把握しているには至っていない場合があります。看護スタッフを中心に、質の高い服薬支援に努めていきたいと考えます。	○	誤薬や飲み忘れが発生しないよう、確実にお年寄りに服薬していただけるように、マニュアルを作成し、常に見直しで使用しております。今後とも、マニュアルの見直しをしながら、質の高い服薬支援を継続していきしていきたいと考えます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段の食事作りで便秘予防のために、食物繊維を多く摂れるような工夫や、水分を多く摂るための工夫、乳製品を召し上がっていただいたり様々な工夫をしております。下剤を使用するお年寄りは、排便周期と下剤の用量について、主治医と相談しながら排便の様子をみています。また、全員、排便記録を活用しております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きやうがいを実施しております。声かけで良い方、付き添う事が必要な方、全て支援が必要な方、それぞれの状態に応じて支援させていただいております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	○	<p>掃除や草取り、ガラス拭きなどは、スタッフだけではなく、お年寄りの力も借りながら行っておりますが、もう少し行いたいと思っております。毎日、ちょっとした時間やタイミングで良いので日常的にスタッフが気付いて、お年寄りと共にしていきたいと考えます。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		<p>お年寄り同士の関係作りも大切な支援と考えております。リビング内には、ゆっくりと座れるソファや、ちょっとした和室、また、廊下にも一休みできる場所を用意しております。少しの時間、自室で一人になりたいと思うお年寄りには、見守りをしながらではありますが、お過ごしいただいております。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の物は、布団や筆筒、洋服を始め出来るだけ自宅で使用していたものをお持ちいただいております。家具の配置も希望に合わせております。	○	部屋を部屋らしくしたいと考えます。お年寄りやご家族に相談しながら、部屋の中の環境整備も含めて考えていきたいと考えております。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	最低でも1日2回はリビング内や居室の換気を行っております。温度調節も暑すぎず、寒すぎずの温度調整を心がけております。また、匂いが気になるトイレなどは、必要に応じて芳香剤等を使用して、お年寄りが不快と感じることがないように配慮しております。	○	加湿器も設置してあり、湿度管理も行っております。特に、冬場は乾燥するため健康管理のためにも今後とも湿度管理を、今まで以上に徹底して行っていきたいと考えております。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内やトイレ・廊下を始めお年寄りが必要とする場所には、お年寄りに合わせた手すりを設置したり、廊下にはちょっと一休みできる場所を設けるなどの工夫をしております。ハード面でカバー出来ない所は、スタッフの関わり（ケア）でフォローしております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お年寄りの状態に応じて、コミュニケーションを図り出来る範囲で無理なく、食事作りや掃除、洗濯といった場面で力を発揮していただいております。失敗したときも、他のお年寄りに配慮しつつ、さりげないフォローでお年寄りの自尊心を傷つけない様にしております。	○	お年寄り一人一人、もっている力を活かせるように「できそうなこと」をご家族やスタッフと一緒に考えながら探していき、役割として行っていただけることを、一つでも多く見つけられるように取り組んでいきたいと考えております。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスやサンルームを活用しております。夏場はテラスに日よけテントを張り、そこで食事をしたりのんびりとお茶をいただいたりしております。また、建物の周りを散歩して併設している他事業所のお年寄りやスタッフとの交流も実践しております。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム「ひまわり」では、何をすることもお年寄りを第一として考えて関るように心がけております。様々な個性のお年寄りが多い中で、お年寄り同士の関係性をつくる支援を行いながら、お年寄りご家族、スタッフを始め、地域の皆様方にも関って頂き、安心して落ち着いて暮らし続けることができる環境を整えていけるように日々模索し続けております。なかなか思うようにいかないこともあり、試行錯誤の毎日です。そんな中でも、お年寄りがふっとしたときに見せる笑顔を、少しでも多くの場面で、そして多くの瞬間にみせていただけることが、生活の支援をさせていただいている中で、目に見える一つの効果として表れているのだと思います。その笑顔を見れば、また皆笑顔になります。お年寄りの笑顔の裏にある、安心や喜びを少しずつでも積み重ねていくことが大切であり、全てのお年寄りが求めているものだと思います。「お年寄り本位」の姿勢を忘れることなく、お年寄りと一緒に楽しみながら、気長に末永くお付き合いさせていただき気持ちを持ちながら、私たちスタッフも関わっていきたくて考えております。